

千葉市

千葉開府900年
過去と現在と未来をつなぐ
節目の年

千葉市は今年、まちが開かれてから900年という大きな節目を迎えました。平安時代後期の大治元年（1126年）、千葉常重が現在の緑区大椎町から中央区亥鼻の地へ本拠を移し、「千葉」を名乗ったことが、まちの歴史の始まりです。今年は市内各所で900年を記念した数々の催しが開催されています。

6月の開府900年記念式典や記念まつりを皮切りに、8月には、「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」がZOZOマリンスタジアムで開催されました。11月には千葉駅前



大通りで、千葉一族ゆかりの福島県相馬市・南相馬市から「相馬野馬追」を招き、記念パレードの開催を予定しています。

そして今、千葉市では、まちづくりの新しいプロジェクトが大きく動き出しています。県都千葉の

顔となる駅前大通り「中央公園ブルムナード」の空間再編の検討や千葉マリンスタジアムの再構築、アルティリー千葉の新アリーナ整備など、未来を形作る都市基盤の姿を具体化していきます。

未来を担う人材育成も重要です。これからの千葉市を支える若者・子どもたちが、自らの力で課題と解決策を見だし、周りに共感を広げながら、新しい価値を生み出すことができる人材へと育つことを強く願っています。開府900年記念の「ひとつくり事業」として、高校生を対象としたアントレプレナーシップ教育など、ひとつくりの取組みを進めていきます。

8月、千葉市はこれまで経験のない豪雨災害に見舞われましたが、地域では土砂の搬出や断水世帯への支援など、共助の力が発揮されました。人と人とのつながりに支えられた地域の力を活かしながら、このまちで暮らす幸せを感じ、愛着と誇りを持てるよう、復旧・復興に全力を尽くします。

船橋市

65万人都市の
子供たちの未来のために

目まちかどスポーツ広場」を開設しました。

7月には、中核市として全国8か所目、県内初の市独自の児童相談所を設置しました。児童虐待の対応などを切れ目なく市が一貫して行うことができる体制を整えました。



10月には、ワールドアスレチックや風車、四季の花々などが人気の「ふなばしアンデルセン公園」が新装開園から30周年を迎えます。子供たちで賑わう北ゲートでは平和都市宣言のシンボルとして岡本太郎が制作した「平和を呼ぶ」が皆様をお迎えします。

折しも宣言から40年の節目となる今、平和への願いを共有しながら、子供たちの未来を見据えた取組を進めています。



銚子市

銚子港水揚げ「生まぐろ」で広がる
新たな観光の魅力

銚子市といえば、全国有数の水揚げ量を誇る銚子漁港。実はイワシやサバだけでなく、「生まぐろ」も水揚げされていることをご存じですか。

産地だから味わえる
「生まぐろ」のおいしさ

冷凍していない生まぐろは、なめらかな舌触りと鮮度ならではの濃いうま味が魅力です。水揚げされたばかりの新鮮な味わいは、産地だからこそ楽しめる特別なごちそうです。

「生まぐろの町・銚子」へ

銚子市では、この生まぐろを新たな地域ブランドとして発信し、「銚子Ⅱ生まぐろの町」を目指した観光プロモーションに取り組んでいます。令和7年度には、銚子市観光協会をはじめ、銚子電鉄、地元の水産事業者、JR東日本、JAL、三菱商事などと連携し、「生まぐろトレイン」の企画や市場見学・食体験を組み合わせた新しい観光コンテンツを造成。列車で銚子を訪れ、市場を見学し、銚子の生まぐろを味わう「五



「生まぐろを食べに銚子へ行こう。」そんな目的で訪れていただけるまちを目指し、地域と行政、企業が一体となつて、新しい銚子の魅力を発信しています。港町ならではの新鮮な味覚と人の温かさに触れる旅を、ぜひ銚子でお楽しみください。

館山市

「みんなが主役住んで楽しい
来て楽しいまち・館山」
を目指して

館山市は、房総半島の南端に位置し、東京都心から100km圏、県都・千葉市からは直線距離で約70kmにあります。

西は波穏やかで「鏡ヶ浦」と呼ばれる館山湾、南は黒潮おどる太平洋に面し、内陸には緑豊かな田園や照葉樹林の丘陵が広がっています。館山湾越しに望む富士山や夕日の絶景、美しい砂浜が広がる平砂浦海岸等、数多くの景勝地が存在します。



また、冬でも菜の花などの花々が咲き誇るなど、一年を通じて温暖な気候に恵まれています。

新たな総合計画で進めるまちづくり

館山市では、本年度から10年間の計画である、第5次館山市総合計画をスタートしています。「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち 館山」をまちの将来像とし、急速な人口減少の抑制と、市民の「幸福度を高めることを目標に、協働のまちづくりを推進しています。

地域資源、特色を活用した
まちづくり

これまで進めてきた「海辺のまちづくり」に加え、持続可能な観光地としていくため、観光地域づくりの司令塔である「観光地域づくり法人（DMO）」の設立を進めています。

また、館山市の強みである、海、自然、食、歴史、文化、スポーツ等の多彩な地域資源を活用し、様々な分野と連携した「体験型ツーリズム」の開発や、回遊性向上に資する環境整備に官民一体で取り組み、交流人口、関係人口の拡大と地域経済の活性化を図っています。

さらに、東京都心との近接性、温暖な気候などの地域特性を活かし、サテライトオフィスやリモートワーク等を含む企業誘致、起業・創業の促進、移住・二地域居住の促進とともに、柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方を推進するなど、誰にとっても「住んで楽しい 来て楽しいまち」を目指しています。

